

「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部1年 小川 美佳

① 学習成果

今回の派遣プログラムを通じて、私は自身の語学力の不足を痛感しました。特に、中国語でのコミュニケーションでは言いたいことを十分に伝えられないもどかしさを何度も感じました。その一方で、拙いながらも自分の言葉が通じたときには大きな喜びがありました。現地の方々が熱心に聞き取ろうとしてくれたことも印象的で、語学は単なる正確さだけでなく、伝えようとする姿勢が重要であると実感しました。この経験を通じて、中国語学習への意欲が一層高まり、今後は日常会話レベルを超えた実践的な表現力を身につけるために、継続的に学習に励む決意を新たにしました。

また、浙江大学の学生の英語力の高さにも強い刺激を受けました。彼らは英語でのディスカッションに臆せず参加し、自らの意見を積極的に発信していました。日本の学生と比較しても、その主体的な姿勢は非常に印象的であり、異なる文化圏における教育環境の違いを肌で感じました。この経験は、語学力だけでなく、議論における積極性や発信力の重要性を再認識する機会となりました。

② 海外での経験

現地での生活は、異文化理解と適応力を養う貴重な体験となりました。特に印象的だったのは、実際に中国語を使って現地の人々と交流したことです。言葉が十分でなくとも、相手が真剣に聞き取ろうとしてくれたり、拙い表現でも通じたりした瞬間は、大きな達成感がありました。また、日常生活で現地言葉を使うことで、語学能力が着実に向上することを実感しました。これまで座学で学んできた中国語が実生活で「使える言葉」に変わる感覚は非常に新鮮であり、今後は長期留学を通じて、より実践的な語学力を身につけたいという意欲が高まりました。

また、異国での生活は価値観や視野の広がりにもつながりました。街を歩きながら目にする景色や、人々の暮らしぶりに触れることで、文化や歴史への理解が深まりました。たとえば、現地の飲食店では地元の人々と気軽に言葉を交わす機会があり、生活文化や習慣を体感することができました。さらに、中国の交通事情や商習慣など、日本とは異なる日常の営みに触れることで、グローバルな視点で物事を考える意識が高まりました。こうした異文化体験は、単なる観光とは異なり、その土地に息づく人々の生活や価値観に触れる機会となり、国際感覚を養う上で大きな糧となりました。

③ プログラム内容

本プログラムでは、授業とアクティビティが並行して行われました。しかし、人によって授業とアクティビティの重なり方に差があった点は課題であるように思います。私は幸運にもアクティビティの時間帯に授業がなかったため、すべての活動に参加することができましたが、一部の参加者はアクティビティと授業が重なり、いずれかを諦めざるを得ない場面もありました。

アクティビティでは、ライトアップされた杭州の夜景を楽しんだり、歴史情緒あふれる街並みを散策したりと、現地の文化や風情を満喫できました。こうした体験は、教室での学びだけでは得られない現地の魅力に触れる貴重な機会となりました。個人的には非常に有意義で満足度の高い内容でしたが、プログラム全体の設計としては、参加者全員が平等に体験できるよう、授業とアクティビティのバランスを再考する余地があると感じました。

④ 進路への影響

このプログラムは、私の将来に対する考え方にも大きな影響を与えました。これまでは「国際」や「国際的」

という言葉が漠然と捉えていましたが、現地で多様なバックグラウンドを持つ人々と交流する中で、その本質を体感しました。異なる文化や言語を持つ人々と直接関わることで、「国際」という概念は抽象的なものではなく、最終的には人と人との関係に帰結するものだと実感しました。特に、相手国の言葉を話すことで心理的距離が縮まり、より円滑なコミュニケーションが生まれることを経験できたことは、今後の国際交流において重要な教訓となりました。

また、このプログラムは私にとって長期留学への意欲を強くする契機にもなりました。実際に海外で生活し、現地の言葉で交流することで、机上の学びだけでは得られない成長を実感したからです。将来的には、法学分野で国際的な課題に携わり、多様な文化的背景を持つ人々と協働したいという思いが一層強まりました。そのためにも、引き続き語学力と異文化理解を高める努力を続けていきたいと考えています。